

III. 生物

13. 湖岸植物 ※現在は測定していません。

(記：野原 精一)

1. 調査定点

霞ヶ浦の以下の 4 地点を設定し、1992 年 8 月 3 日、4 日に調査を行った。

古渡 (St.1)

美浦 (St.2)

土浦 (St.3)

崎浜 (St.4)

各地点の概況は、St.2 以外は浮葉植物であるアサザが大きな群落を形成しており、このうち St.3 は古い護岸工事があるだけで自然の湖岸が残っている地点である。

各地点において、湖水に向かって右手方向に、3 から 5 ラインを設定し (ライン(m))、湖岸線から垂直方向に湖水に向かって 5m 毎に光波測量機 (Nikon, DTM-A20CLG) を用いて測量を行い、調査を行う方形区 (コドラート) を設定した。

2. 調査方法

植生は、4 地点の計 13 ライン上において、おおむね水深 1m に至る地点まで、5m 感覚で 1 m² の方形区 (コドラート) を設け、確認された植物種及び各種ごとの被度を測定した。

被度 (割合) は r (1 本)、+ (1-5%)、1 (6-10%)、2 (11-25%)、3 (26-50%)、4 (51-75%)、5 (76-100%) の階級に区別した。

種の同定と生育場所の特定 (水生・湿生種か陸生種か) は原色日本植物図鑑 I～III (保育社) によって行った。ただし、沈水植物は目測が困難であるため調査の対象から除いた。

水深と泥深はグラスファイバー製の棒 (直径 5mm X 2m) を垂直に差し込んで計測した。

また、航空写真はセスナ機から 4×5 カメラ (エアロテヒニカ、KODAK PCNG ISO160°) を用いて 8 月 10 日に江戸崎入先入、土浦入をやや斜めから撮影した。高浜入、麻生沖は 8 月 25 日に同様に撮影した。